

静岡県下田市における南海トラフ被災後の復興計画案

1210162 三田 理也

高知工科大学 システム工学群

建築・都市デザイン専攻

指導教員 重山 陽一郎

1. 背景

近い将来に起きると言われている南海トラフ地震の二次災害の一つである津波により、太平洋沿岸部は多大な被害が予想されている。その中でも静岡県の伊豆半島沿岸は津波の最大高さ 33m と予想されており、東北大震災の津波と同等の規模であることから、街は更地になると予想される。

今回対象敷地として選んだ静岡県下田市のペリーロードは歴史的価値や建築物の魅力がある街並みであり、現在観光スポットとして知られている。しかし被災により街が更地になった後、迅速な復興のために、歴史的価値ある街並みの継承が行われない可能性がある。

2. 目的

下田の歴史的価値や魅力あるペリーロードという街並みを、被災後に住宅街やモール街などの都市型の街並みにするのではなく、歴史的街並みの継承並びに永年にわたる街の保全を確立したものにする。

街並みのコントロールのために、地区計画を定めることにより、文化・観光機能等の充実を促進するとともに、街路空間や建築空間において魅力的な歩行者空間を推進し、歴史を感じさせる、風格ある観光地区として、良質な環境と景観を有する空間の形成を図る。また街並みの活性化と安全性の確保のための屋外空間の設計を行う。

3. 対象敷地

対象敷地は静岡県下田市の市街地の南側に位置しているペリーロードであり、ここ下田市の観光スポットである。(図 1) 下田市は日本で初めて開港した地であるという歴史的背景を持っている。

開港に関する条約を結んだ了仙寺はこのペリーロードの先に位置しており、なまこ壁によって囲まれた敷地にあり非常に風格ある建造物である。



図 1 対象敷地とその周辺を示す図 (国土地理院地図に対象敷地等を追記して掲載)

また街並みの特徴は以下のようなものがある。

3-1 なまこ壁

なまこ壁はこの下田市において、非常に多く点在しており、このペリーロードの街並みに特徴付けている。(図 2)



図 2 なまこ壁

3-2 伊豆石の石積み壁

この伊豆石は静岡市葵区宮ヶ崎の賤機山で発見された古墳が最古（6世紀頃）のものとしており、古くから使われている建材である。この伊豆石を使った建築物群はペリーロードを象徴する建築物である。（図3）



図3 石積み壁の建築群

4. 地区計画による街並みのコントロール

4-1 地区計画の目標

当地区は、日本で初めて開港したという歴史的背景となまこ壁や石造り壁といった特徴的な街並みを持っている。

このような地区において、地区計画を定めることにより、歴史ある地区として風格ある観光・文化機能等の誘導を図るとともに、歴史的町並みの継承と永年にわたる街の保全を行う。

4-2 区域の整備・開発及び保全の方針

- 1) 下田を代表する街並みを目指して、ペリーロードに面した1階部分は物品販売業や飲食業を営む店舗の立地誘導を図る。
- 2) 沿道の建築物の外観は圧迫感の無いものとし、建築物の用途の制限により、歴史的魅力を感じるまちづくりを目指す当地区にふさわしい市街地景観の形成を図る。

4-3 地区整備計画

1) 建築物等の用途の制限

次に掲げる建築物はこの地域の雰囲気害すため建築してはならない。

A 風俗営業、麻雀屋、パチンコ屋、ナイトクラブ、

葬祭場

B 共同住宅、寄宿舍又は下宿。但し、次の二点を満たす場合建築可能とする。（図4）

- ・当該建築物の外壁からペリーロードの境界線までの最小距離が20m以上ある場合。
- ・当該建築物の敷地がペリーロードに接する場合には、ペリーロードに接する敷地の幅の合計が8m未満である場合。

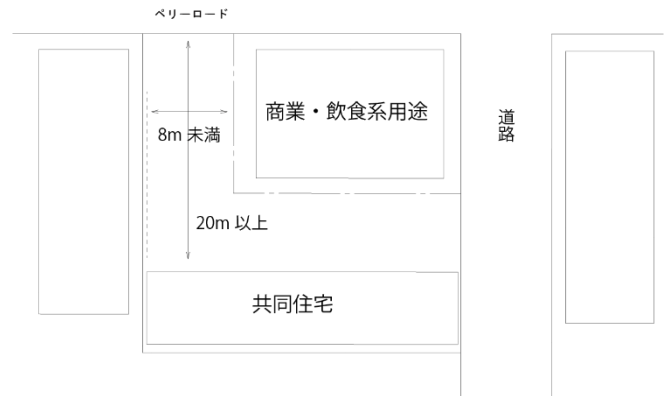


図4 共同住宅用途制限

C ホテル又は旅館。但し次の二点を満たす場合建築可能とする。（図5）

- ・当該建築物の宿泊施設の部分がペリーロードに面していない場合。
- ・当該宿泊施設のペリーロードから最小20m以上ある場合。

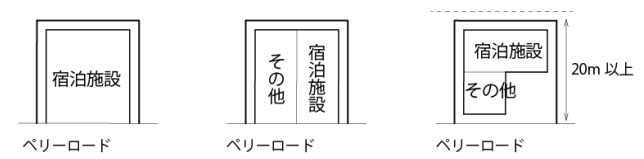


図5 制限の対象となる例

2) 建築物等の形態又は色彩その他の意匠の制限

ペリーロードにおいて建築物の屋根は瓦屋根とし、構造物の高さは10m以下とする。また建築物の壁の種類は以下のものに限定する。

・なまこ壁

工法は、下田で使われている平瓦を水平に並べる「いも張り」と平瓦を斜めに張る「四半張り」を用いる。（図6）

また平瓦の寸法と並べる間隔は現存のものにならない図7のようにする。



図6 なまこ壁

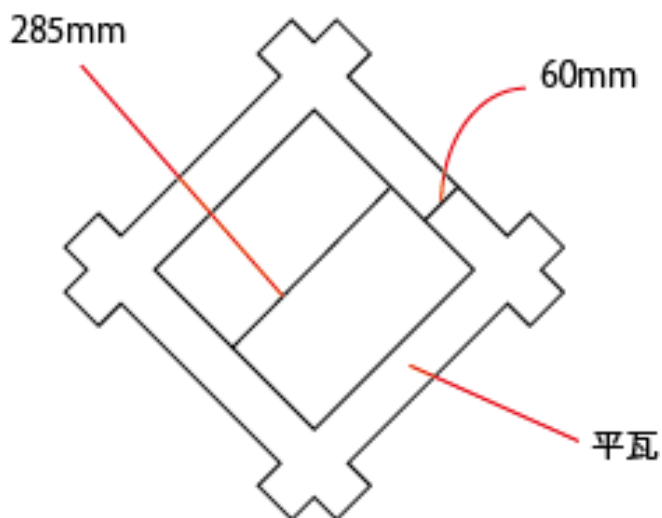


図7 平瓦の寸法と間隔

・伊豆石を用いた石造り壁

組積構造では構造的に非常にもろく、地震の揺れによって崩壊する危険性がある。この欠点を補う工法として、もともと穴の開いた部材を用い、その穴に鉄筋を通し、さらにその周辺にモルタル、コンクリートなどを流し込む工法を用いる。(図8)

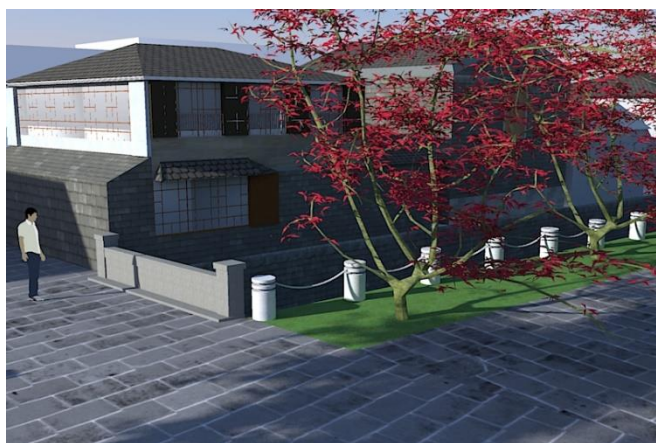


図8 伊豆石を用いた石造り壁

・漆喰壁

全てをなまこ壁にするのには費用がかかるため、景観の統一性を崩さないと思われる漆喰壁を1部に使用する。(図9)



図9 漆喰壁

・板張り壁

工法はペリーロードに現存しているものと同じ、落し板倉工法を用いる。この工法は高い剛性と耐力を有している。(図10)



図10 板張り壁

5. 屋外空間の計画

5-1 無電柱化計画

現在ペリーロードは電線が美しい景観を損ねている。そこで電柱と電線を地中下する方法として小型ボックス活用埋設を用いる。

5-2 防災空地の設計

歴史的街並みの再建を行うと木造建築が多いうえに建築物同士が非常に密接な状態になる。そのため火災が起きた際、広がりやすい。そこで延焼を防止するスペースとしての公園を設計。

またこの下田の地は 50 年前からアジサイ祭りが行われており、非常にアジサイとのつながりが深い地である。そこで防災空地の中心に花壇を設け、アジサイをよりアピールできるような設計とした。

5-3 広場の設計

現在のペリーロードの活気がない最も大きな要因として、イートインのシステムしかなく、ベンチや川を眺められる場所は存在するものの人が外で飲食をしたり、子供が遊べるような場所がない。そこで防災空地の対岸に広場を設け、子供も大人も楽しめる空間とした。(図 11)



図 11 広場

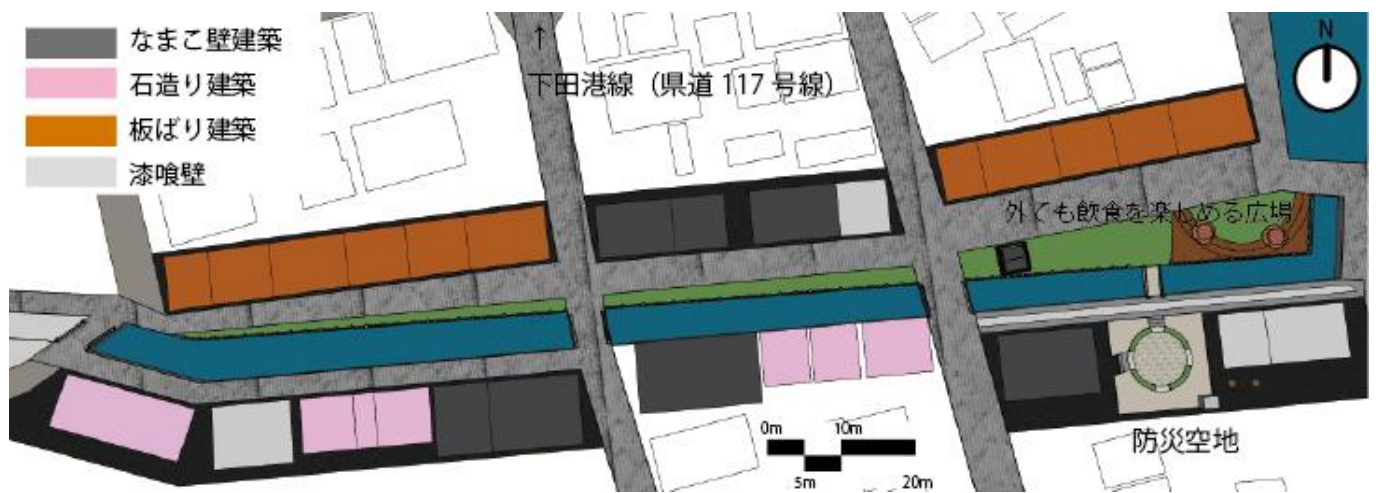


図 12 配置図



図 13 全体パース